

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成17年4月21日(2005.4.21)

【公開番号】特開2003-106907(P2003-106907A)

【公開日】平成15年4月9日(2003.4.9)

【出願番号】特願2002-216273(P2002-216273)

【国際特許分類第7版】

G 0 1 K 11/16

G 0 9 F 3/00

G 0 9 F 3/02

G 0 9 F 3/10

【F I】

G 0 1 K 11/16

G 0 9 F 3/00 Q

G 0 9 F 3/02 U

G 0 9 F 3/10 A

【手続補正書】

【提出日】平成16年6月14日(2004.6.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

温度警告装置において、

記憶装置と、

パターンを成して設置される蠟主体物質であって、所定温度に融点を有し前記記憶装置の外部に取り付けられる蠟主体物質を有する温度インジケータと、

を備え、前記温度インジケータが前記記憶装置の動作とは関係なく動作することを特徴とする温度警告装置。

【請求項2】

前記記憶装置はM R A Mカードであることを特徴とする請求項1に記載の温度警告装置

【請求項3】

前記記憶装置はM R A Mチップであることを特徴とする請求項1に記載の温度警告装置

【請求項4】

前記蠟主体物質のパターンは、間を隔てたパターンを成して粘着性裏紙の上に設けられ、連続して堆積する前記蠟主体物質が空間により分離されるようになっており、前記所定温度で、前記蠟主体物質が連続して堆積する前記蠟主体物質の間の空間に溶け込むことを特徴とする請求項1に記載の温度警告装置。

【請求項5】

前記粘着性裏紙はカラー地を有し、前記蠟主体物質のパターンは前記カラー地に対して濃淡差を有しており、前記所定温度で、溶け込んだ前記蠟主体物質が前記粘着性裏紙のカラー地を隠すことを特徴とする請求項4に記載の温度警告装置。

【請求項6】

前記蠟主体物質上に透明被覆をさらに備えることを特徴とする請求項3に記載の温度警

告装置。

【請求項 7】

フォームファクタパッケージをさらに備え、前記記憶装置は前記フォームファクタパッケージの内部に保持され、前記フォームファクタパッケージは外面に前記記憶装置の前記温度インジケータを見るための窓を備えていることを特徴とする請求項 1 に記載の温度警告装置。

【請求項 8】

温度警告装置において、
記憶装置と、
多層構造であって、粘着性裏紙、パターンを有する前記粘着性裏紙上のパターン層、及び前記パターン層の上であって前記パターンを透かして見ることができる透明感温層を有する多層構造と、
を備え、前記透明感温層は、所定温度で可視特性が変化し、前記所定温度で前記パターンの視認性を低下させることを特徴とする温度警告装置。

【請求項 9】

前記記憶装置は M R A M カードであることを特徴とする請求項 8 に記載の温度警告装置。

【請求項 10】

前記記憶装置は M R A M チップであることを特徴とする請求項 8 に記載の温度警告装置。

【請求項 11】

前記透明感温層上の透明被覆をさらに備えることを特徴とする請求項 8 に記載の温度警告装置。

【請求項 12】

前記透明感温層は蠟主体層を備え、前記蠟主体層は前記所定温度に融点を有し、前記所定温度で蠟が溶けて前記パターンの視認性を低下させることを特徴とする請求項 8 に記載の温度警告装置。

【請求項 13】

前記透明感温層はインク層を備え、前記インク層は、前記所定温度で不可逆的色変化を生じ、前記所定温度で前記インクが前記パターンの視認性を低下させることを特徴とする温度警告装置。